

# 平面図 S=1: 1000



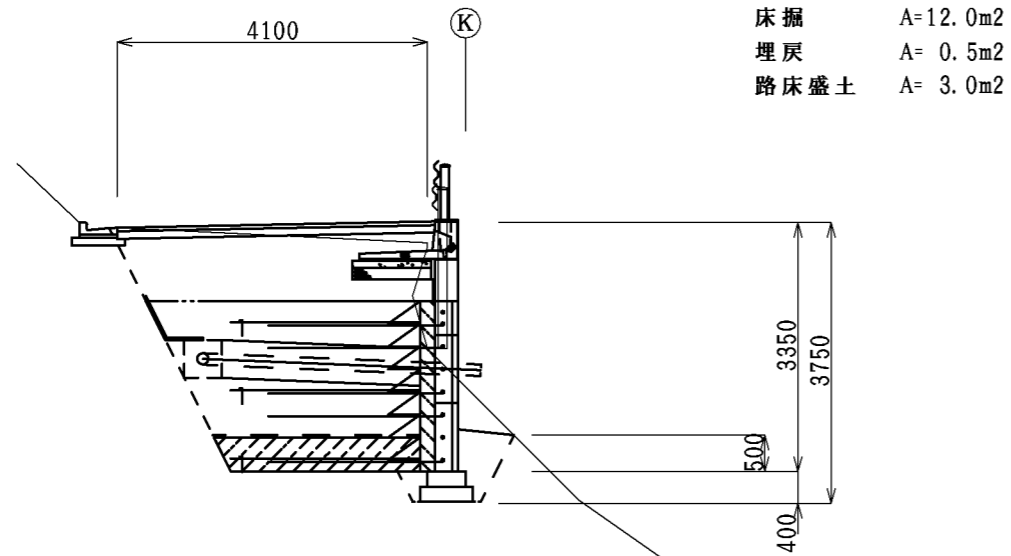
## 工事概要

復旧延長	L=12.0m
道路幅員	W=4.9~4.0m
補強土壁工	A=27m <sup>2</sup>
アスファルト舗装	A=49m <sup>2</sup>
ガードレール(再利用)	L=12m
工事用道路	N= 1式

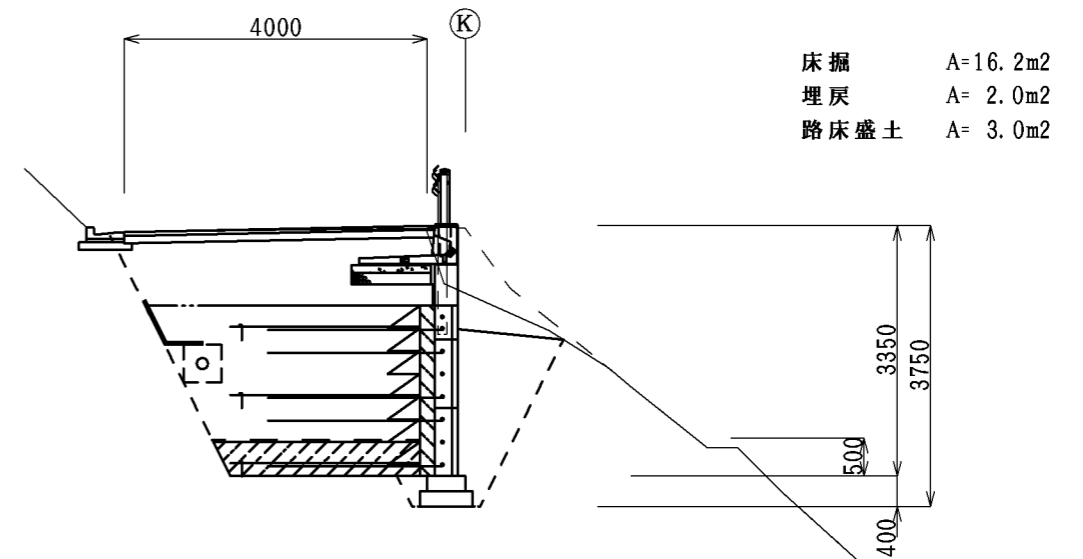
工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	平面図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	1
事務所名	建設部 道路河川課		

# 横断面図 S=1:100

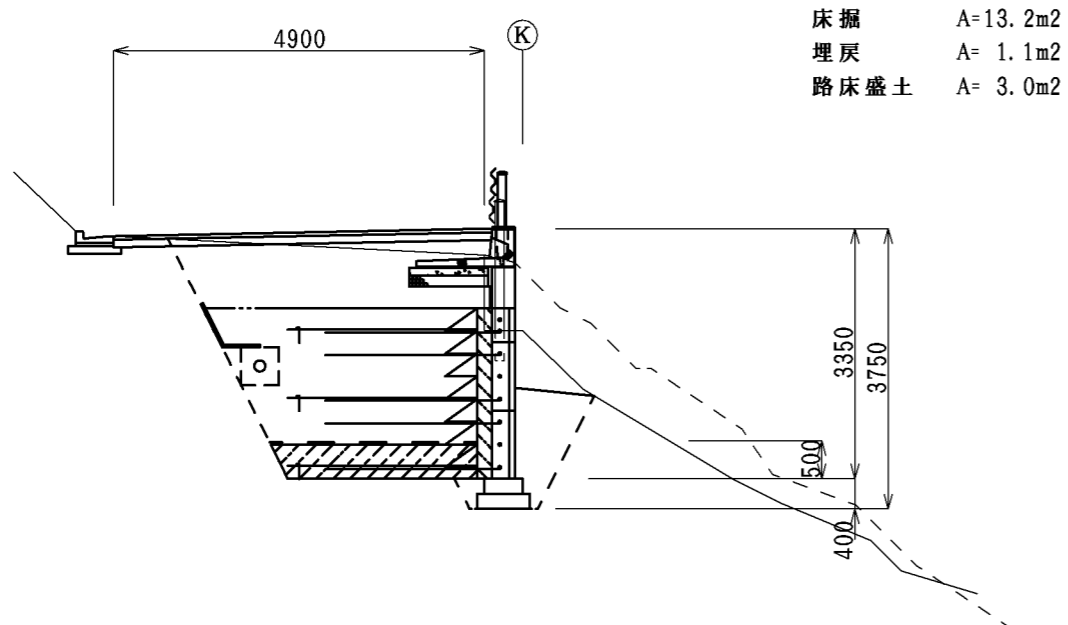
No.0+6.0



No.0+12.0



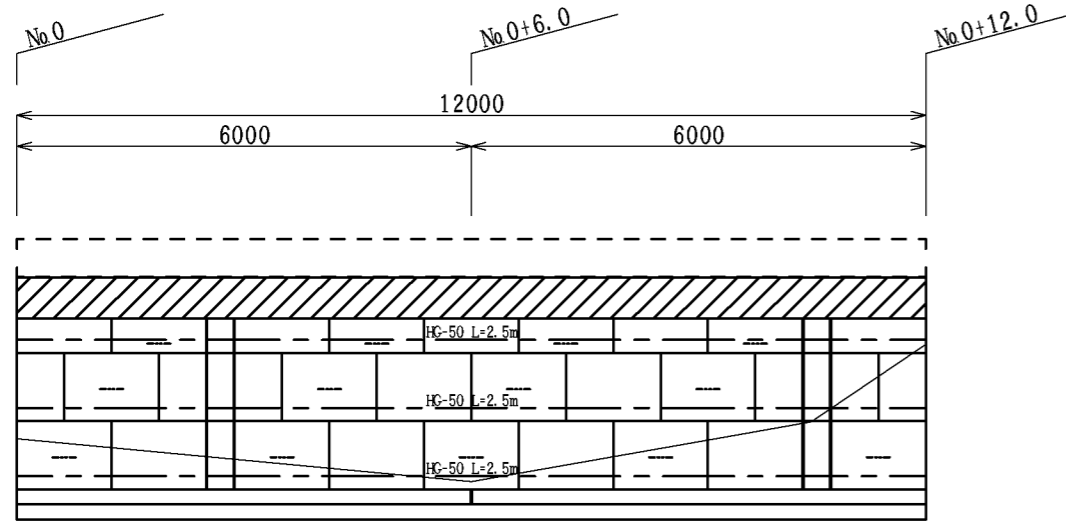
No.0



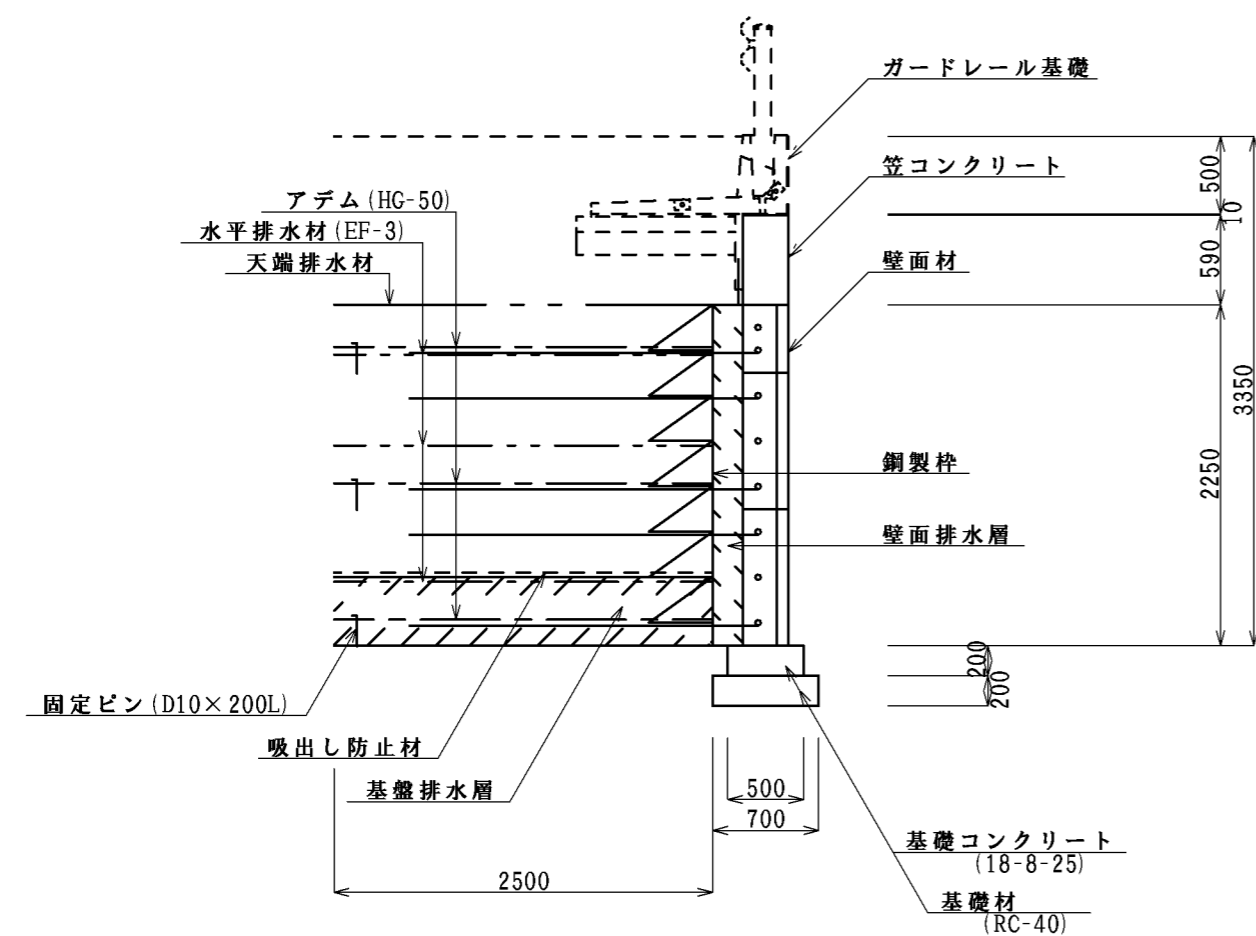
工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	横断面図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	2
事務所名	建設部 道路河川課		

# 補強土壁工構造図

展開図 S=1:100



標準断面図 S=1:50



材料表

凡例	名称	規格	単位	数量	寸法	特記事項
□	アダムウォールパネル	AP-900AR	個	15	900×1250	
		AP-900VH	個	9	450×1250	
		AP-900WH	個	6	900×625	
		AP-900SQ	個	-	450×625	
		AP-900LR	個	4	900×350	延長調整パネル
		AP-900LH	個	2	450×350	延長調整パネル
—	鋼製枠	AP-K20*04-03-5-XA-SET	set	42		
—	グリッドベルト	AB-GB11-5M-SET-S	set	100		
—	パネル付属部材	AB-BUZAI-900-P	set	18		
—	天端パネル用付属部材	AB-BUZAI-900-T	set	9		
—	延長調整用パネル部材	AB-BUZAI-900-PL	set	6		
—	縦目地シート	AP-SHEET	枚	18		
—	連結プレート	AB-PLATE	set	-		
—	笠コンクリート		m <sup>2</sup>	2.5		
—	ジオグリッド (主補強材)	HG-50	m <sup>2</sup>	86.4	部材詳細図参照	芯材: アラミド繊維 被覆材: ポリエチレン 伸び率: 4.5%
—	水平排水材	EF-3	m	32.5	W=300, t=4	
—	天端排水材	S-300	m	36.0		
—	連結金具	AD-JCL-SET	set	5		
—	固定ピン	AD-D10*200	本	58		

特記事項

建設技術審査証明: 第0804号

補強土壁工	面状補強材 (ジオテキスタイル) を層状に敷設し、補強材の引張力と土との摩擦抵抗力によってせん断強さを補強し、安定した二重壁構造を有する盛土構造物を構築する		
盛土材料	土質条件	単位体積重量 $\gamma = 19.0 \text{ kN/m}^3$	粘着力 $c = 0.0 \text{ kN/m}^2$
	せん断抵抗角 $\phi = 30.0^\circ$		
盛土材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工前に盛土材の土質試験を実施し、設計定数を確認する</li> <li>発注機関の定める規定値に従い、締固め管理を行う</li> <li>盛土材料は適切な含水比とする</li> </ul>		
基礎地盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な地盤又は適切な処置が施された地盤とする</li> <li>床掘り完了後に所定の支持力を満足するか確認する</li> </ul>		
排水工	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な排水処理を施す</li> <li>予期せぬ湧水が確認された場合は速やかに排水対策を行う</li> <li>施工中は仮排水工を設けるなどして、盛土本体や壁面部へ水を導かないよう排水処理を行う</li> <li>補強土壁の底版は排水対策を施す</li> </ul>		
壁面工	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強盛土体を長期的に保護でき、排水層の砕石による土圧に対して十分な耐力をもち、耐久性に優れ長期の使用が可能な材料を用いる</li> </ul>		
補強材	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強材は(財)土木研究センターの建設技術審査証明報告書を有する製品とする</li> <li>補強材は、4.5%程度の伸びで所定の引張強さを発現する面状の材料とする</li> <li>礫材等による補強材の耐衝撃性は、90%以上の強度保持率を有する材料とする</li> <li>耐食性に優れた材料とする</li> <li>隣接する補強材の敷設は、最大3cm程度の間隔とする (ラップする必要はない)</li> <li>曲線部や折れ部において、隣接する主補強材間の隙間が10cm程度以上となった場合は、同質・同等の材料にて隙間を詰めること</li> </ul>		
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生法および労働安全衛生規則などに遵守する</li> </ul>		

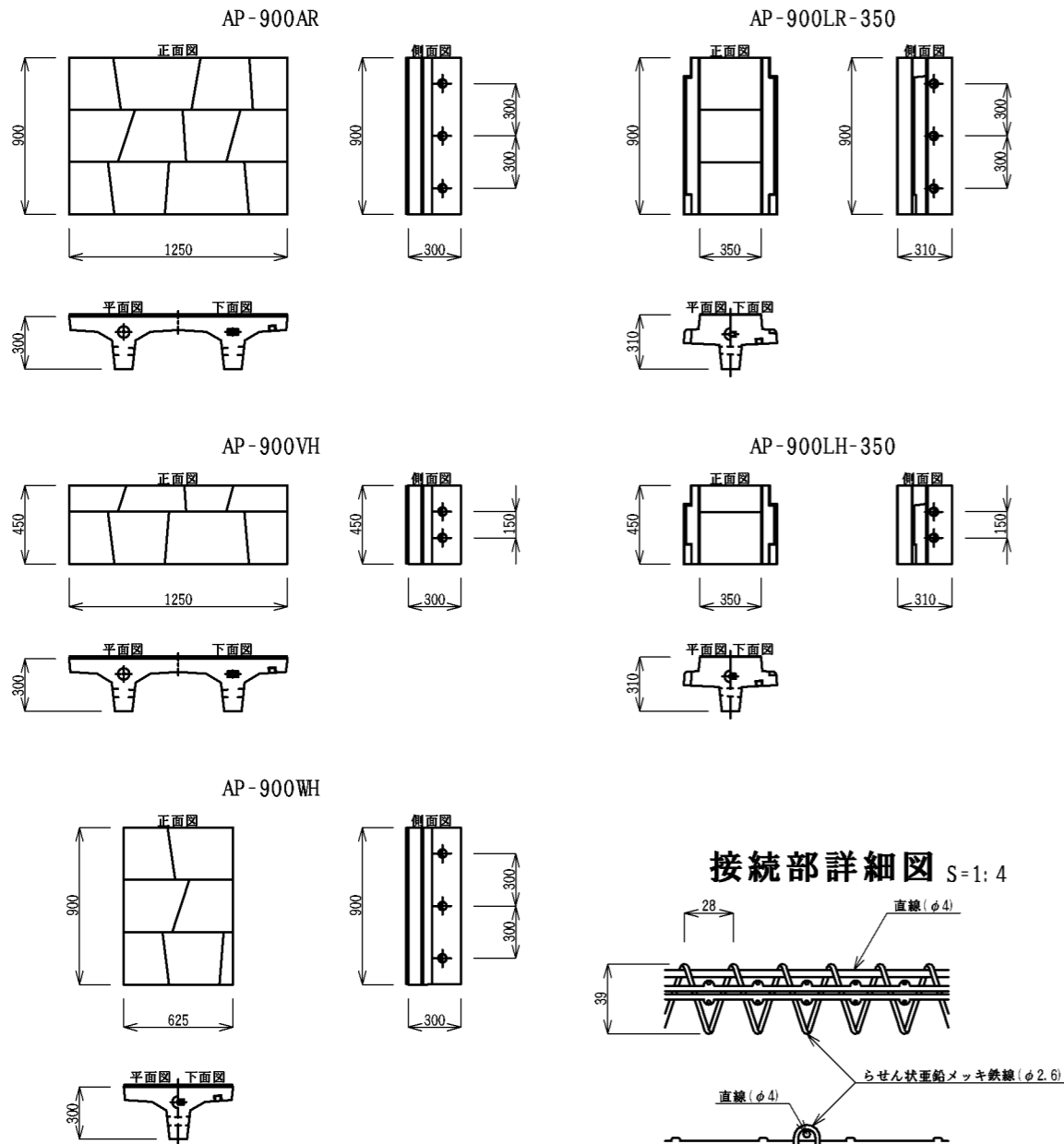
設計条件		
盛土材-1	単位体積重量	$\gamma = 19.0 \text{ kN/m}^3$
	内部摩擦角	$\phi = 30.00^\circ$
	粘着力	$c = 10.0 \text{ kN/m}^2$
基礎地盤	内部摩擦角	$\phi = 30.00^\circ$
	粘着力	$c = 0.0 \text{ kN/m}^2$
水平震度	内的・外的安定	$kh = 0.15$
	全体安定	$kh = 0.10$

工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	補強土壁工構造図 (1)		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	3
事務所名	建設部 道路河川課		

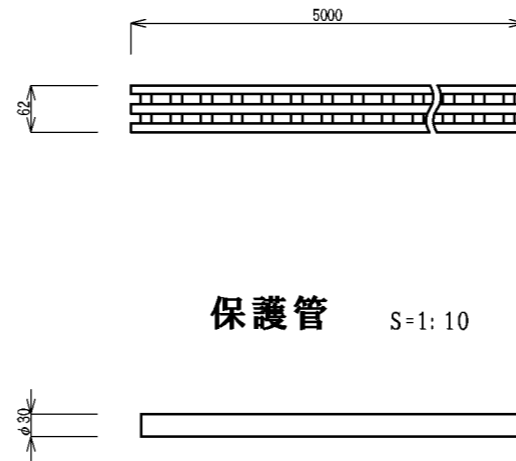
# 補強土壁工構造図

## アダムウォール背面構造図

コンクリートパネル詳細図 S=1:40

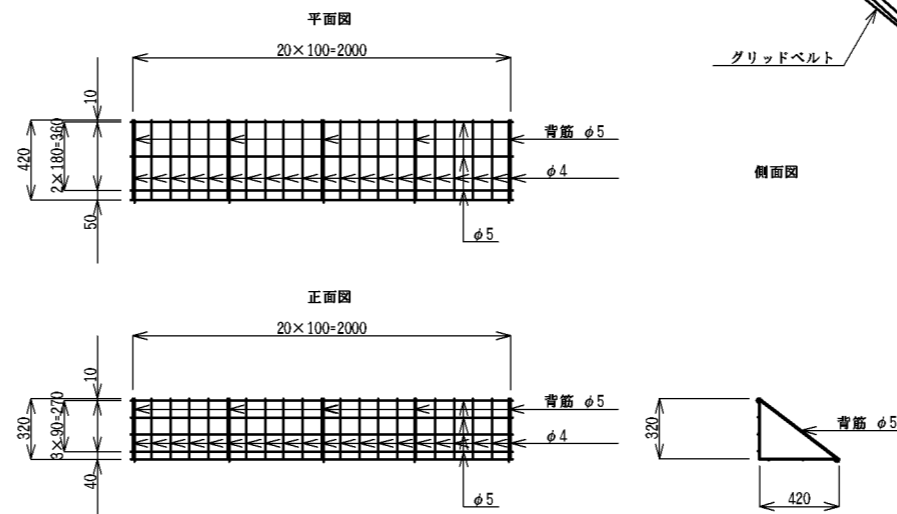


グリッドベルト S=1:10

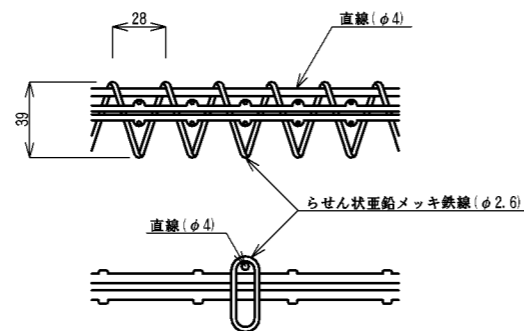


保護管 S=1:10

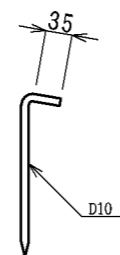
鋼製枠 S=1:10



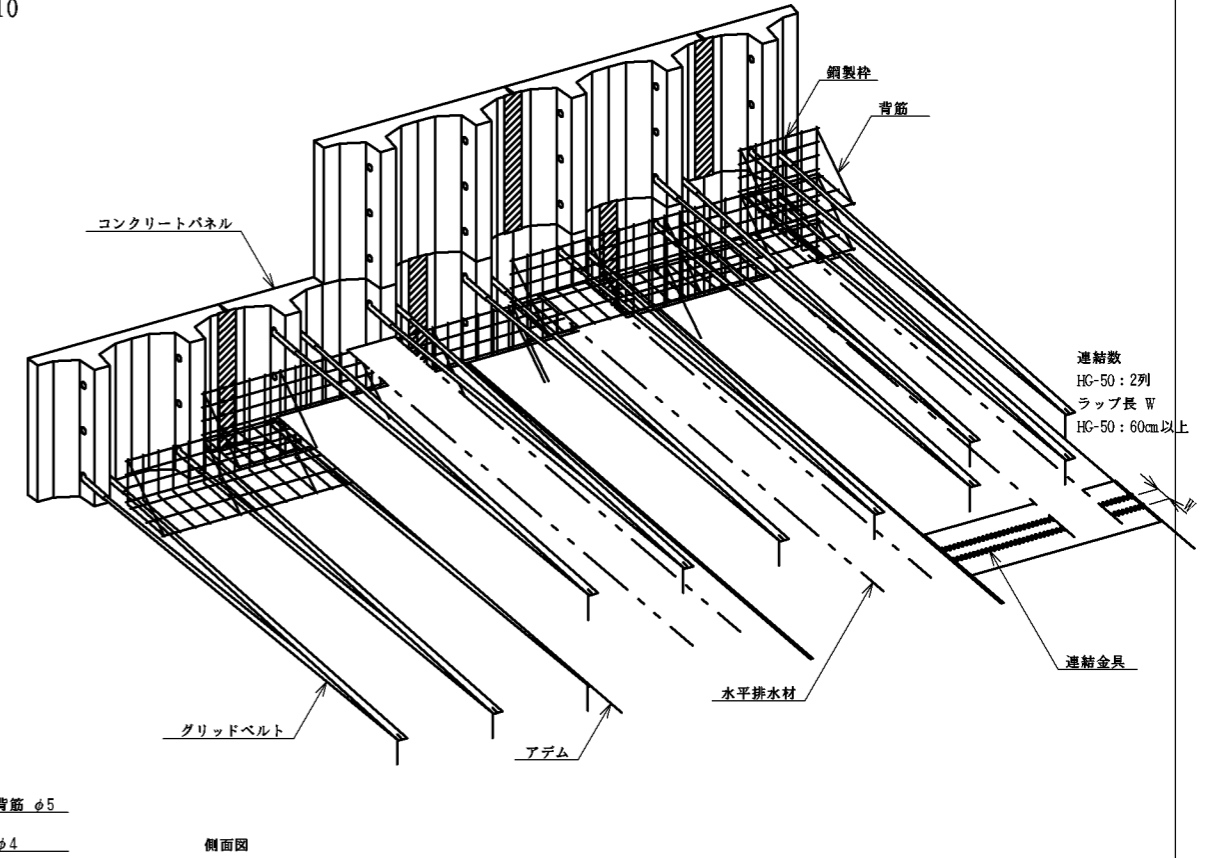
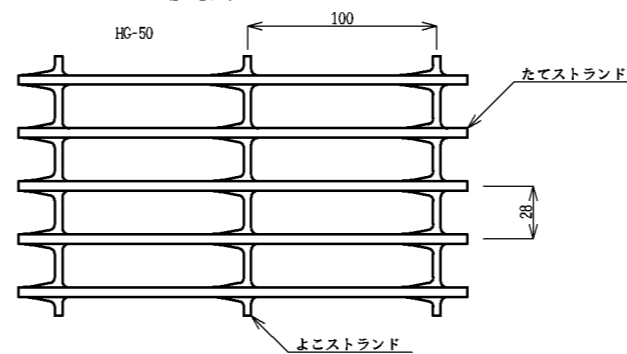
接続部詳細図 S=1:4



固定ピン S=1:10



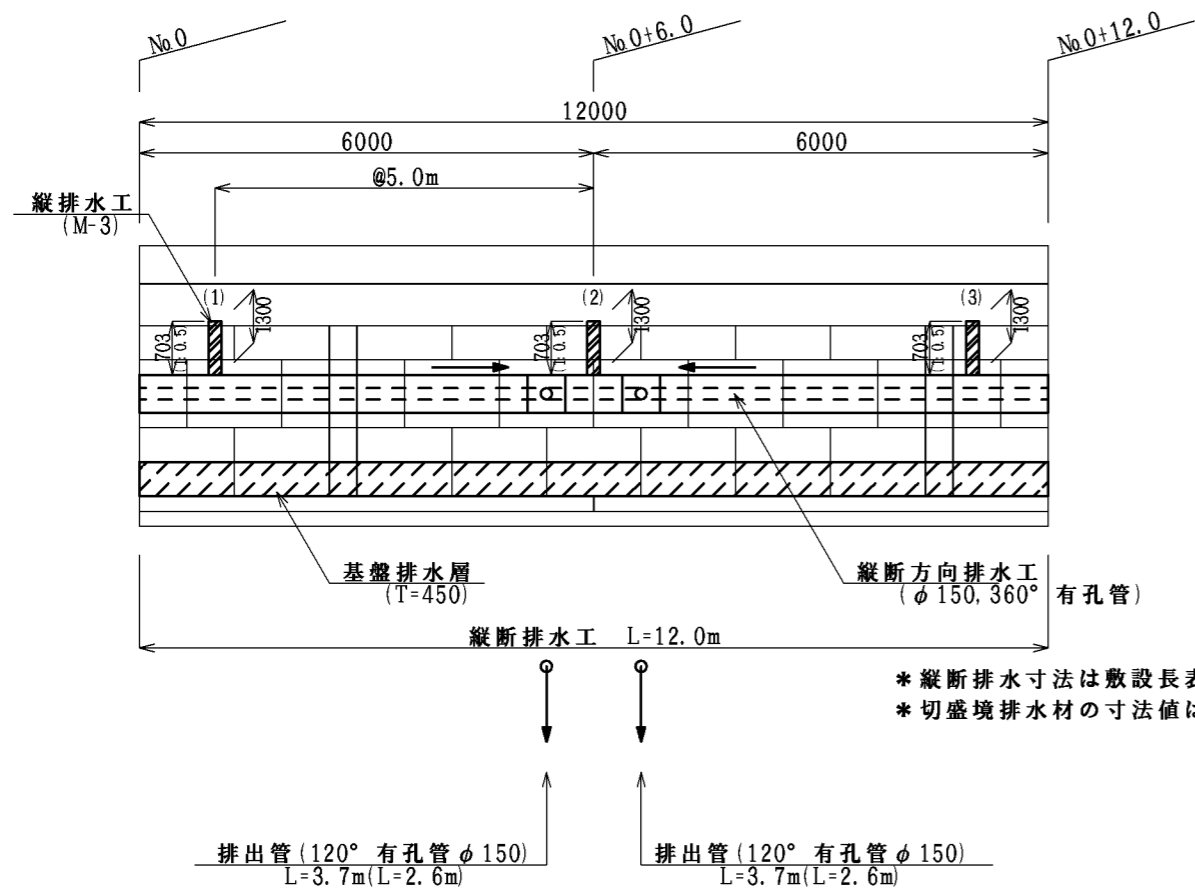
アダム詳細図 S=1:4



工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	補強土壁工構造図(2)		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	4
事務所名	建設部 道路河川課		

# 補強土壁工排水計画図

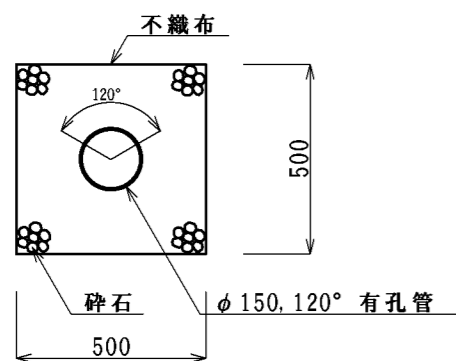
展開図 S=1:100



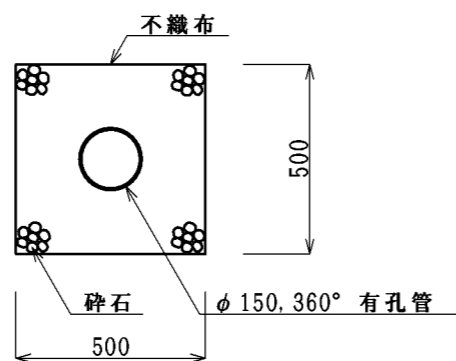
\* 縦断排水寸法は敷設長表記  
\* 切盛境排水材の寸法値は斜率を考慮した値

## 排水工詳細図

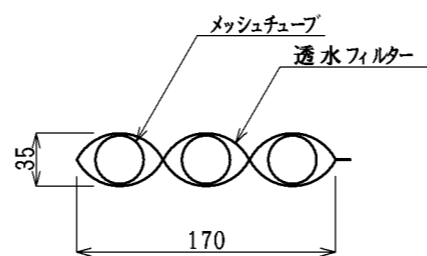
横断方向排水工 1:20



縦断方向排水工 1:20



切盛境排水工 モノレン M-3 1:5



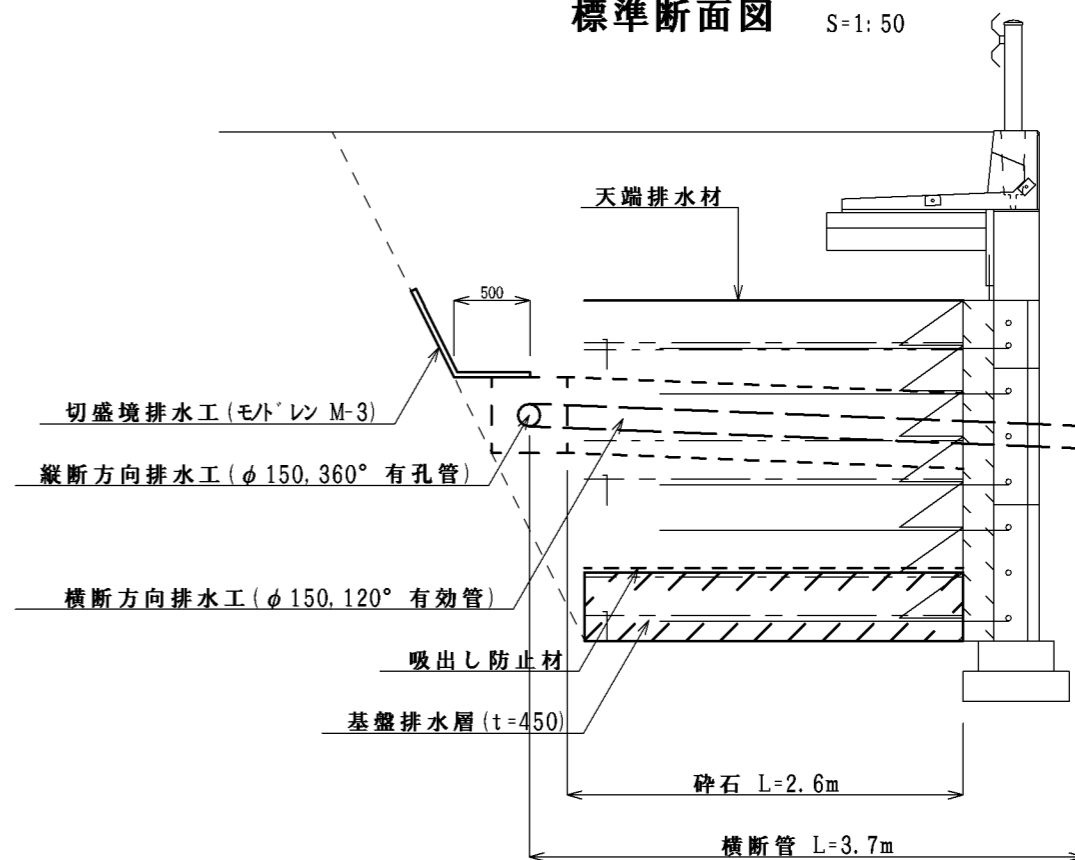
工程	種別	規格寸法	単位	数量
切盛境排水	パイプ状排水材	W=170, φ=35×3本	m	4.1
	有孔管(縦断管)	φ=150, 360°有孔	m	12.6
縦断・横断方向排水	有孔管(横断管)	φ=150, 120°有孔	m	7.8
	不織布		m <sup>2</sup>	36.2
	砕石		m <sup>3</sup>	4.2

φ:直径(mm), W:幅(mm)  
数量はロスを含む

## 特記事項

基盤排水工	・補強土壁の底面には、地下水及び地山からの湧水等による補強領域への進入を防止し、速やかに補強領域外に排除するため、基礎地盤の表面に厚さ50cm程度の基礎排水工を設置する ・基盤排水工には、砕石または砂等の透水性が高く、せん断強度の大きい土質材料を用いるものとし、透水係数は1×10 <sup>-10</sup> ~1×10 <sup>-9</sup> (cm/s)程度以上、かつ盛土材料の透水係数の100倍程度以上とする ・基盤排水工に細粒分が侵入することが考えられる場合は、基盤排水工の上面に吸出し防止材(ジオフリースなど)を敷設する
水平排水層	・補強領域内への浸透水を排除するため、盛土の一定厚さごとに、補強領域内に適切な排水勾配で水平排水層を設ける。排水材料としては、砕石や砂または高い排水機能を有する不織布や透水マット(エンドレンフィルター、エンドレンマットリブ型など)を用いる ・補強領域の水平排水層は、湧水等を補強領域内に導水しないように切盛境に設置する縦断排水工と連結しない
切盛境排水工	・水が集まりやすい切盛境や掘削のり面には切盛境排水溝を設ける。排水材料としては、砕石または砕石と同等の排水機能を有する透水マット(モノドレン、エンドレンマット、エンドレンマットリブ型など)を用いる ・この場合の設置間隔の目安は、モノドレン、エンドレンマットリブ型を用いる場合は5mm、エンドレンマット(耐圧型)を用いる場合は2mmを目安とするが、湧水の状況に応じて設置間隔や配置を決定する ・調査の時点で予測されなかった湧水があるときは、その程度に応じて適切な排水施設を計画する
横断方向排水工	・補強土壁の横断方向には、横断方向排水工を10mの間隔で設け、補強土壁の最深部には2箇所設置する
縦断方向排水工	・水が集まりやすい切盛境や掘削のり面の小段には、湧水量の程度に応じて適切な縦断方向排水工を設ける
天端排水材	・補強土壁の天端には、補強土壁の上側からの水の侵入を防ぐための天端排水材として、不織布(ジオフリースS-300など)を敷設する ・天端排水材を設ける高さに路盤がある場合は、最上段に敷設されるアダムなどと同程度の高さに天端排水材を設ける

標準断面図 S=1:50

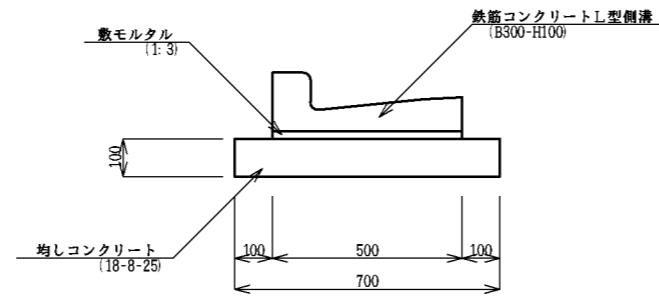
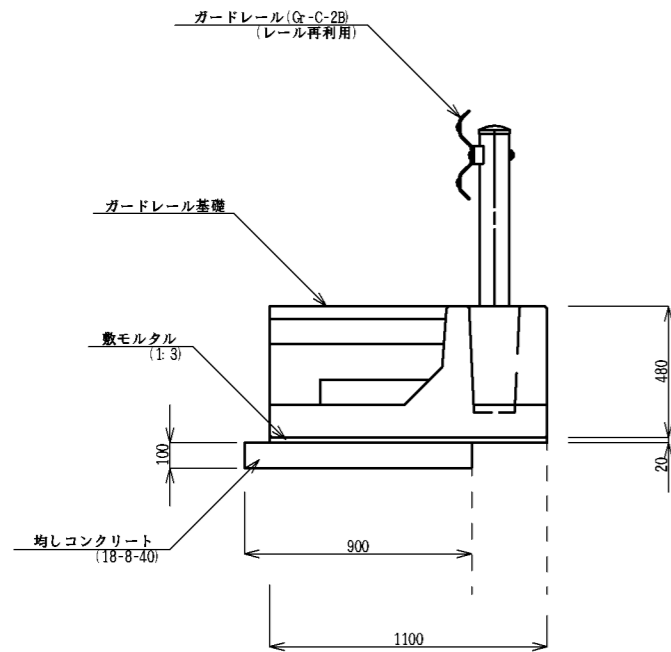


工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	補強土壁工排水計画図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	5
事務所名	建設部 道路河川課		

工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	工法図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	6
事務所名	建設部 道路河川課		

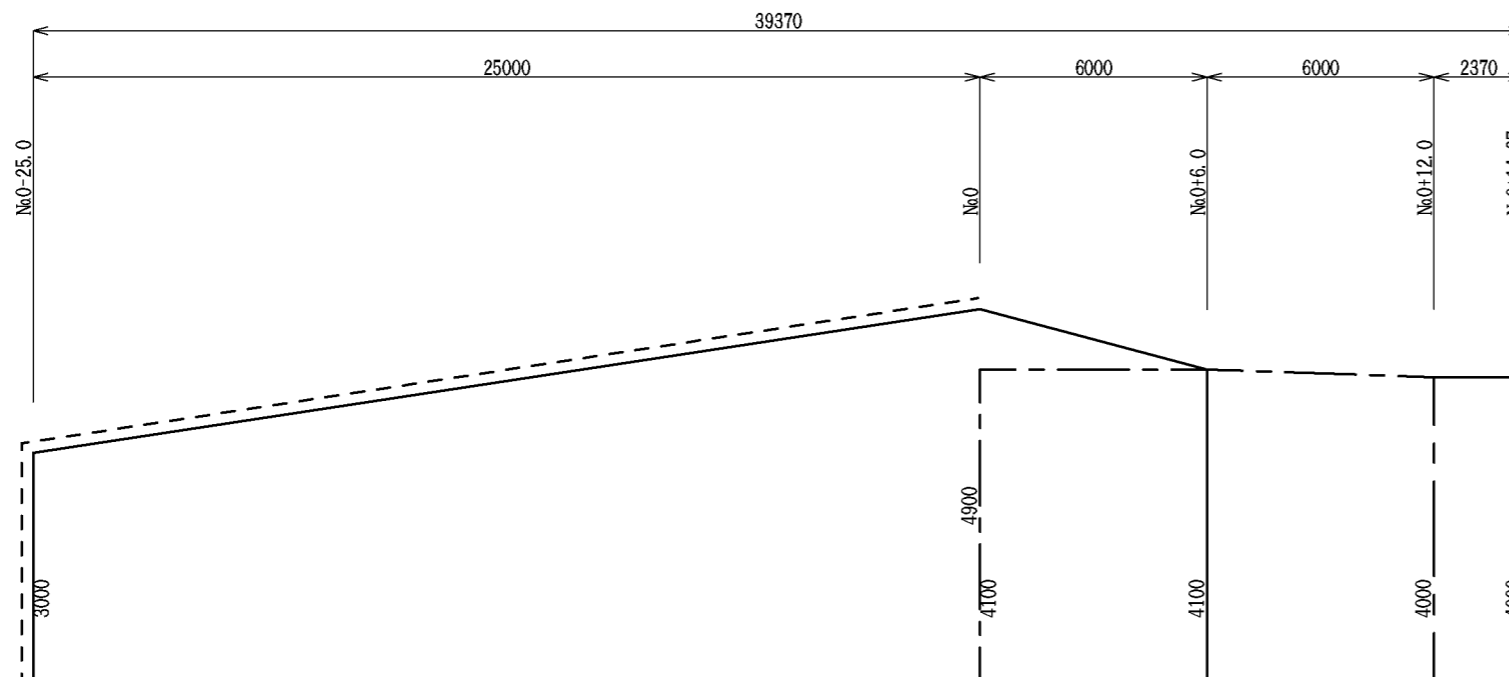
# ガードレール基礎 S=1:30

# L型側溝 S=1:20



# 舗装撤去・復旧 縦S=1:100 横S=1:200

本体工事分      - - - 舗装切断箇所

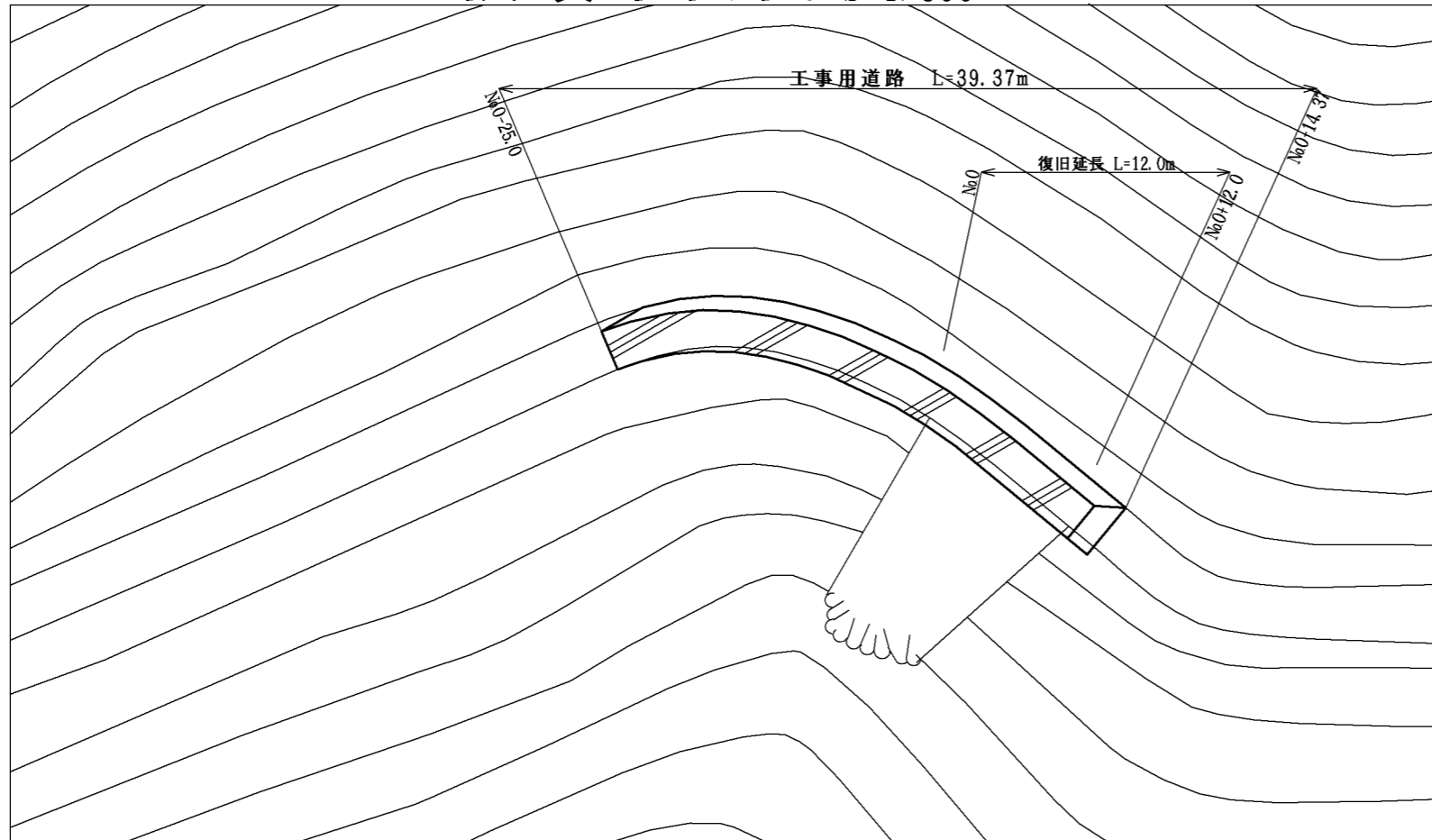


舗装切断工 (仮設工)  $L = 3.00 + 25.00 = 28.00\text{m}$   
 舗装版撤去 (本体工事)  $A = 4.10 \times 6.00 + (4.10 + 4.00) \div 2 \times 6.00 = 48.90\text{m}^2$   
 舗装版撤去 (仮設工)  $A = (3.00 + 4.90) \div 2 \times 25.00 + (4.90 + 4.10) \div 2 \times 6.00 + (4.10 + 4.00) \div 2 \times 6.00 + 4.00 \times 2.37 = 244.53$   
 $A = 244.53 - 48.90 = 195.63\text{m}^2$   
 舗装版処分 (本体工事)  $V = 48.90 \times 0.16 = 7.82\text{m}^3$   
 舗装版処分 (仮設工)  $V = 195.63 \times 0.16 = 31.30\text{m}^3$

表層工・路盤工 (本体工事)  $A = 4.10 \times 6.00 + (4.10 + 4.00) \div 2 \times 6.00 = 48.90\text{m}^2$   
 表層工・路盤工 (仮設工)  $A = (3.00 + 4.90) \div 2 \times 25.00 + (4.90 + 4.10) \div 2 \times 6.00 + (4.10 + 4.00) \div 2 \times 6.00 + 4.00 \times 2.37 = 244.53$   
 $A = 244.53 - 48.90 = 195.63\text{m}^2$

# 仮設平面図 S=1:500

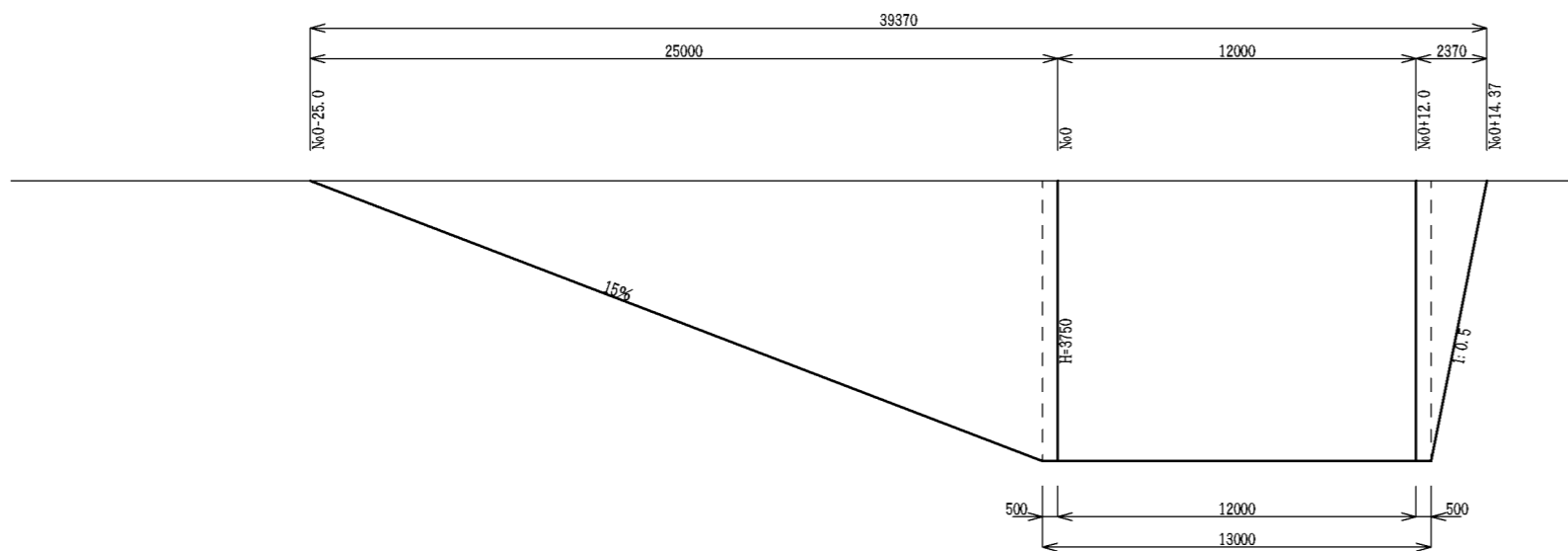
敷砂利



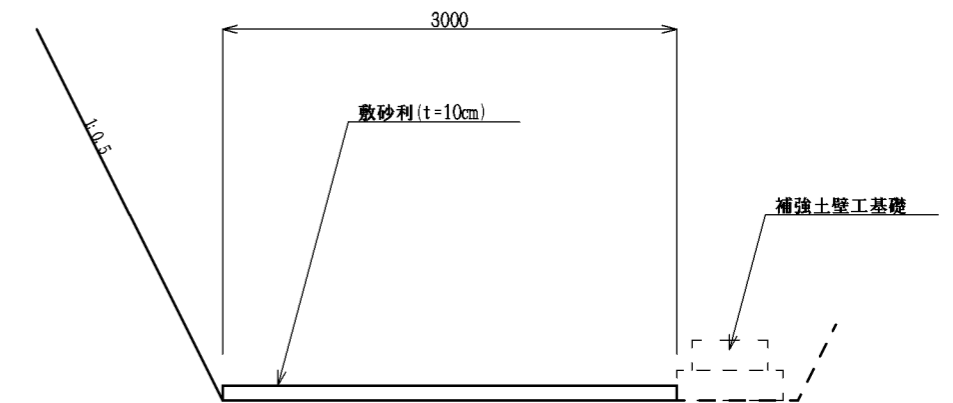
# 工事用道路

床掘	V= 290m <sup>3</sup>
路床盛土	V= 90m <sup>3</sup>
路体盛土	V= 200m <sup>3</sup>
法面整形(盛土)	A= 30m <sup>2</sup>
植生工(ワラ芝)	A= 30m <sup>2</sup>
表層工	A= 196m <sup>2</sup>
路盤工	A= 196m <sup>2</sup>
防護柵撤去復旧	L= 28m
L型側溝設置撤去	L= 2m
舗装切断工	L= 28m
舗装版撤去工	A= 196m <sup>2</sup>
殻処分	V= 31m <sup>3</sup>

# 仮設縦断面面図 横S=1:250 縦S=1:100



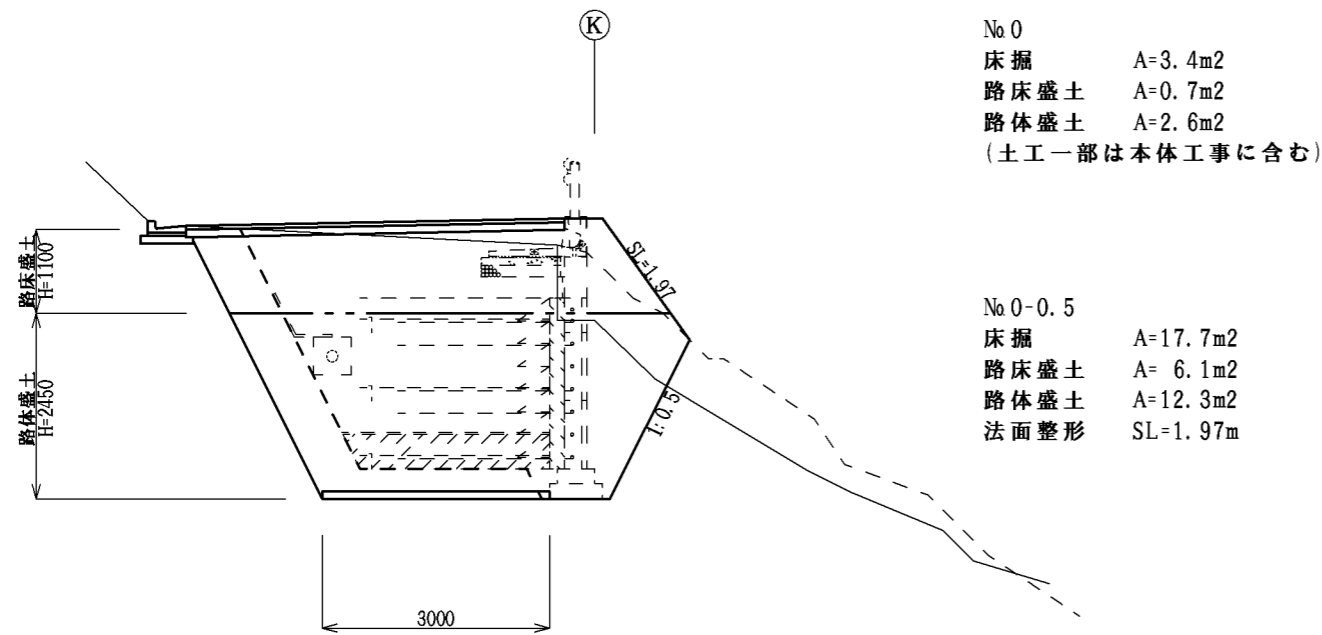
# 標準断面図



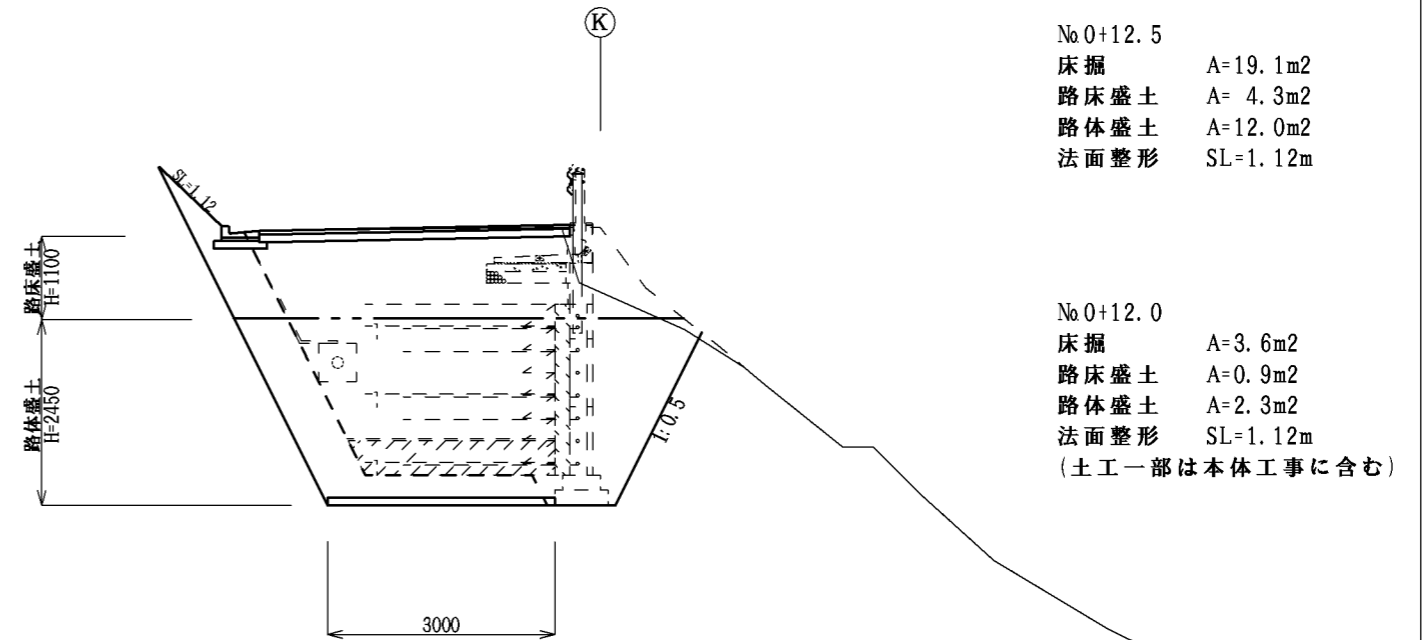
工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	仮設平面図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	7
事務所名	建設部 道路河川課		

# 仮設横断面図 S=1:100

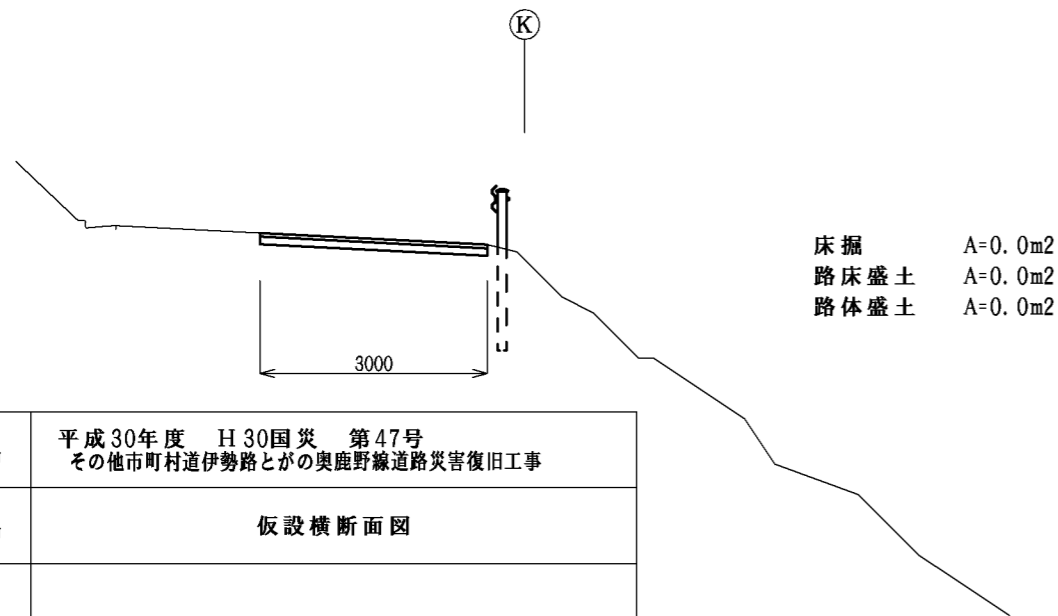
No.0 (No.0-0.5)



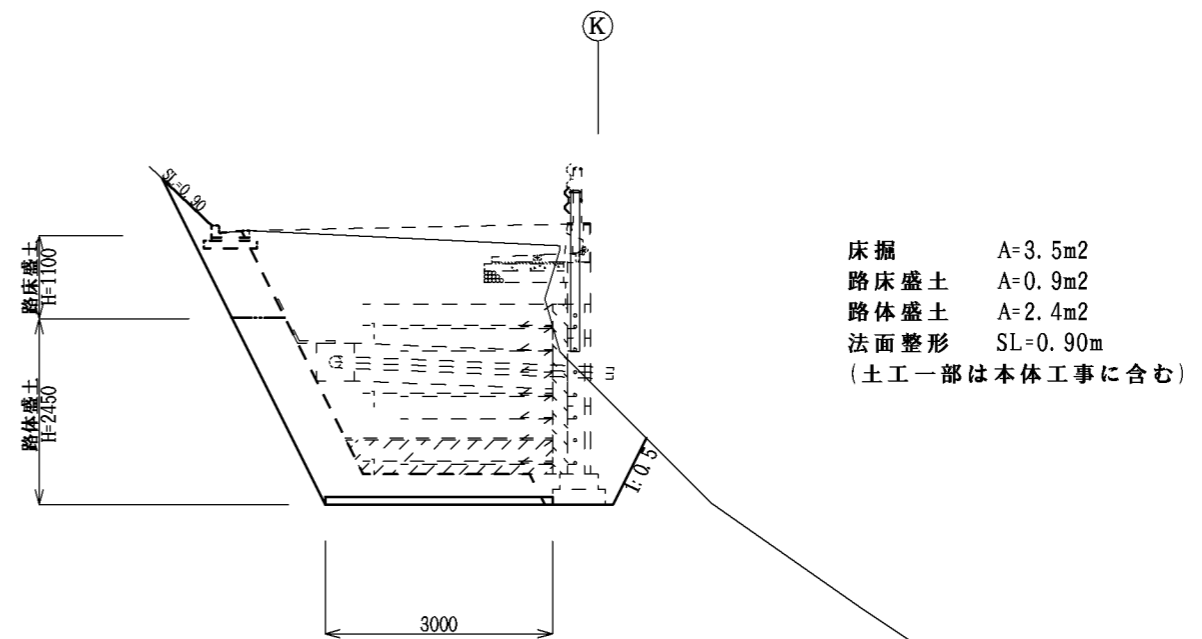
No.0+12.0 (No.0+12.5)



No.0-25.0



No.0+6.0



工事名	平成30年度 H30国災 第47号 その他市町村道伊勢路とがの奥鹿野線道路災害復旧工事		
図面名	仮設横断面図		
年月日			
縮尺	図示	図面番号	8
事務所名	建設部 道路河川課		